



“半日コース” 【 城山エコミュージアムツアーのお知らせ 】
 テーマ：若葉台ってどんなところ？
 ～知らなかった昔と今～



「若葉台住宅はあの黒川紀章が基本設計したんだって！
 かながわのまちなみ100選に選ばれているよ。」

日時：令和5年10月22日（日） 9：00～12：00 （雨天中止）
 集合：城山公民館（受付8：30～ 開会9：00～）
 定員：20名（館区内に在住、在勤の方。先着順） 参加費：無料
 申込み・問合せ 9/15～10/18 城山公民館 Tel 042-783-8194

<行程> 城山公民館・・・中央公園・・・若葉台北尾根・・・小栗公園・・・榛名公園・・・
 もりつく・・・竹林・・・かたくり公園・・・YYわかば・・・砥石山公園・・・
 モミジバフウの道・・・グリーン公園・・・谷津川・・・桂昌寺跡・・・城山公民館

- * 1 マスクの着用については個人の判断といたします。
- * 2 当日、体調がすぐれない場合には、参加を見合わせて下さい。
- * 3 新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては事業を中止する場合があります。
- * 4 山道を歩くところがあるので、歩きやすい靴、服装でご参加ください。



城山検定 解説 答え：モミジバフウの果実

モミジバフウはアメリカフウともいわれ、原産は北米～中米です。公園などによく植えられ、城山地区では若葉台の街路樹になっています。高さ15m以上にもなる高木で、葉はモミジに似た手のひら形、秋には美しく紅葉します。

モミジ...という名前ですが、カエデ科ではなくマンサク科です。
 (多羽田 啓子 絵・写真と文)



モミジバフウの葉



紅葉したモミジバフウの街路樹

城山エコミュージアム通信

令和5年（2023）8月15日 第44号

エコミュージアムとは、エコロジー（生態学）とミュージアム（博物館）を合わせた造語で、その地域そのものが、生きた貴重な資料であるという考え方のもとに、地域の歴史や文化、自然について学び、地域への愛着を深め、交流を深めていく活動です。

自然あふれる丘の上「若葉台」

およそ50万㎡の広大な山林を開発し造成された若葉台住宅は、豊かな自然と景観を活かした都市近郊住宅として誕生し、幼稚園、小学校、郵便局、商業施設や公園などが整備され橋本駅までのバス路線が開通しました。1977年から順次入居が始まり、現在およそ900世帯、2,100人が暮らしています。



若葉台中央イチョウ並木通り
 (写真：若葉台住宅を考える会提供)



公園内（通常は車の通り抜け不可）



若葉台入口モミジバフウ通り

主要道路には異なった街路樹と、遊歩道には花木が植えられ四季ごとの変化を楽しむことが出来ます。また、5つの公園には砥石山、かたくり、榛名、谷津、小栗と昔からこの地に馴染みの深い名前が残され、緊急時以外は車の通り抜けが出来ないため、お年寄りや小さな子ども達まで安心して利用出来ます。かながわのまちなみ100選にも選ばれています。

一方、開発当初から入居した多くの住民が高齢化を迎え、坂道の多さや買い物、通院などの移動手段が大きな課題となってきました。対応策として、自治会と住民ボランティアによる取り組みで相模原市の支援も受けて新たな交通システム「グリーンスローモビリティ」の導入を計画しています。その他、若葉台クラブの活発なサークル活動や住民ボランティアによる福祉サロンの開催、自家野菜販売等の朝市、活性化を目指した「YYわかば」など、明日の若葉台に向けた多くの人達による活動が展開されています。

(塩谷 弘道)



(グリーンスローモビティー出発式の様子。6月16日テレビ神奈川で放送されました。)

編集後記

今年は、5月に台風2号が通過、そして7月からは猛暑が続き農作物や生き物、私たちの生活に及ぼす影響は益々心配されます。今年のツアーは若葉台方面です。みなさんと元気に歩くことを楽しみに計画中です。
 (長久保 梓)

企画/作成：

相模原市立城山公民館 城山エコミュージアム委員会

発行：相模原市立城山公民館
 TEL：042-783-8194【直通】
 FAX：042-783-1721



ホームページをパソコンで見るとは

相模原市 城山エコミュージアム 検索

相模原市立城山公民館ホームページ <http://www.sagamihara-kng.ed.jp/kouminkan/shiroyama-k/index.html>



今回のトピック ■特集「若葉台」■城山探訪「川尻バイパス」■しろやまミニ図鑑「ムササビ」■城山検定■活動報告「つどい」他■インフォメーション「ツアーのお知らせ」



「令和4年度城山エコミュージアムのつどい」開催

日時 令和5年2月12日（日）13：30～16：00

会場 城山公民館大会議室

活動発表

活動紹介・事例紹介
活動紹介に続き事例紹介として令和4年10月23日に開催した城山エコミュージアムツアー『向原ってどんなところ？』について説明し、写真などを展示しました。「分かりやすく、参考になりました！」との声があり、参加者の方は、熱心に観ていました。

講演：『相模原のみち』～大山みちを中心に～
講師：加藤 隆志氏(相模原市立博物館学芸員)



加藤学芸員からのお話は大変興味深い事ばかりで、皆さんとても熱心に集中して聞いていました。参加者の方からは「知らない事ばかりで面白かった。」「勉強になった。」「もっと聞きたくなった！」との声がありました。
今まで歩いてきた道、何気なく見ていた風景が違って見えてきました。これがエコミュージアム！ってことか！初めて委員として『つどい』に参加しての感想でした。（法林 信子）

- 内容
- 『道』を見る視点→役割や名称が時期によって変わる。
 - 相模原の道(津久井地域を中心に)→神奈川県内と市内の主な道、八王子道、甲州道中、津久井往還(津久井道) 信玄道
 - 大山信仰と大山道
 - ・多彩な大山信仰(雨乞い、火防、農業、漁業、商売繁盛、人生儀礼、死者供養、大山燈籠等)
 - ・大山参詣と大山道(大山に参詣する大山講は、関東一円及び静岡・山梨・長野・新潟・福島に分布。各地に広がる大山参詣のための『大山道』)

◇城山公民館まつり 出展 令和5年3/4（土）～3/12（日）
令和4年度の公民館まつりは『展示』だけではなく『音楽と芸能』『体験』『フリーマーケット』が行われました。城山エコミュージアム委員会では、テーマ「向原ってどんなところ？」のツアーの内容を中心に9日間展示発表を行い多くの方々に見ていただくことができました。（金子 直美）

◇城山エコミュージアム委員会全体会 開催 令和5年4月16日（日）
定例会、ツアー、つどいなどの年間活動計画が決まりました。
つどいの参加者のうち2名の方が入会され、気持ちも新たに新年度が始まりました。

- ◇学習会開催
- ◇仙洞(せんとう)と内裏(だいり) 令和5年4月5日(水) (担当：高橋 告郎)
上皇の住まいとされる仙洞、天皇の住まいの内裏。津久井に仙洞寺が、南大沢に小山内裏公園がそれぞれ名付けられているのはなぜだろう？地名の由来は興味深い。
 - ◇地球の温暖化シリーズ 動物のゲップについて 令和5年5月10日(水) (担当：塩谷 弘道)
動物のゲップから発生するメタンガスはCO₂の25倍空気を温める効果があり、餌の改良などでこれを減らす工夫が必要。
 - ◇鬼女紅葉伝説 令和5年6月7日(水) (担当：高橋 告郎)
なぜ「紅葉狩り(もみじがり)」というのか、鬼女となった紅葉(もみじ)という名の女性を退治したことによると、長野県鬼無里(きなさ)に伝わっています。



空飛ぶ座布団 「ムササビ」

日本の固有種であるムササビが、城山地区にも生息しています。リス科のムササビは樹上生活をしていて夜行性なので、日中、お目にかかることは滅多にありません。日が沈んで30分ほどすると巣穴から出てきて活動を始めます。長い前足と後足の間に飛膜(ひまく)とよばれる膜があり、飛膜を広げて滑空する姿は「空飛ぶ座布団」ともいわれています。



巣穴から顔を出すムササビ



滑空するムササビ

以前は、川尻八幡宮の鎮守の森から小松の木々へと滑空する姿が見られたそうです。いつまでも、ムササビが暮らす自然豊かな場所であることを願います。

(長久保 梓 写真と文)
画像は2023. 2. 18小松で撮影
参考文献：小学館の図鑑NEO〔新刊〕動物

城山探訪

谷ヶ原は交通の要所 ～川尻バイパス～

昭和55年(1980)11月津久井郡4町長と議長より神奈川県にバイパス建設を陳情、56年1月に「川尻バイパス促進委員会」が組織されました。約5か年県へ働きかけ、関係諸機関や地権者の方々の了承が得られて、県道相模原津久井線川尻バイパスが建設されました。構造は久保沢の地形を利用して道路を立体化、交通の流れは橋本方面と上溝方面へと二分されました。これで交通渋滞はだいぶ緩和されました。
平成5年(1993)2月20日に県主催の開通式が盛大に開催されました。(出典：樋口 孝治著「写真に見る久保沢のむかし昔」)



久保沢からバイパスを見上げる。



バイパスを記念した絵タイルは橋脚下の公園や歩道で見ることができる。鮮やかな色が付けられたマンホールもある。



城山検定 問題

この丸い木の実を見たことがありますか？リースや工作の材料として使った方もいるかもしれません。いったい何の木の実でしょう？

→解答は次のページ

